

謹賀新年

謹んで

新年のお慶びを
申し上げます

赤平市長 高尾 弘明



新年あけましておめでとう
ございます。

市民の皆様におかれましては、輝かしい新春を健やかに迎えられましたことと心からお慶び申し上げます。

近年、当市においては、財政問題と言う大きな壁に立ち向かうため、これまで様々な行財政改革に取り組んで参りましたが、残る課題とされてきた病院事業会計の不良債務につきましても、平成23年度決算で全額解消し、市の全ての会計が黒字化を達成することができました。これら全てが財政健全化計画等を上回る速さでの改善となり、改めてご支援ご協力を賜りました市民の皆様にご心より感謝を申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、道内では南空知で観測史上最高の最深積雪を記録し、夏は9月に入っても記録的な残暑が続き、冬を迎えた矢先に胆振・日高地方で爆弾突風の影響による暴風雪で5万6千戸が停電となるなど、異常気象を痛感する1年となりました。

当市では、豪雪による一部空き家屋の倒壊があつたものの、特に大きな被害はありませんでしたが、近年における大地震やゲリラ豪雨等を含め、こうした自然災害に対処するには、住民自身が認識を深め日頃からの備えについて考えていただくことも必要でありますし、行政としては、防災体制の確立に向け、施設の強化や備蓄等に引き続き努力して参らなければなりません。

本年は、第5次赤平市総合計画がスタートして、折り返しの年となる前期5年間の最終年を迎えます。昨年は、企業の担い手となる人材育成事業や中学生以下の医療費無料化、公営住宅等の建替え事業など、産業振興・少子化対策・住環境整備の3つの重点プロジェクトに基づく施策を中心に取り組んで参りましたが、今後はさらに

地域医療環境の充実を図るため、市立病院の病棟建替え事業に着手するほか、将来を担う子供たちの教育環境の充実に向け、小・中学校適正配置計画に基づく学校再編を進めて参ります。

また、人口減少に歯止めが掛からず、まだまだ課題が山積している状況ではありますが、一方では、A Bホールの開設や市立病院内かあさん食堂ぼらん亭の運営、炭鉱遺産活用取り組み、NPO法人赤平市民活動支援センターの多様な取り組み、そして、各種イベントや市民花火大会などに対する市民協力など、多くの市民に支えられ、まちの活性化に繋がる展開が進められている事に、今後大いに活躍を期待するところでもあります。

本年も市民の皆様と語り合い知恵を出し合いながら、一緒に協働のまちづくりを推進していくため、全精力をあげてまいりますので、皆様のお力添えを心からお願ひ申し上げます。

皆様方と赤平市に取りまして、元気に満ちて笑顔があふれる一年となりますようご祈念申し上げます、年頭のごあいさつとさせていただきます。